



SASE's 30th Annual Conference

Global Reordering: Prospects for Equality, Democracy and Justice

世界秩序の再検討：平等、民主主義、正義の未来のために

会期：2018年6月23日(土) - 25日(月) Annual Conference

6月21日(木) - 22日(金) Early Career Workshop


会場：同志社大学今出川キャンパス

受付日程：2017年12月 2018年2月上旬(予定) Abstract 募集

詳細は…<https://sase.org/>

お問い合わせ：同志社大学 社会学部 藤本昌代

infosasejp@gmail.com



Global Reordering: Prospects for Equality, Democracy and Justice

世界秩序の再検討：平等、民主主義、正義の未来のために

グローバリゼーションは市場の開放、国境を越えた「ヒト」・「モノ」・「カネ」の自由な交換、相互利益をもたらす発展を徐々に深めていく長期的なプロセスとして長らくもてはやされてきたが、今、危機に瀕している。根深い世界金融危機をきっかけに、地球上のほぼ全ての地域で悪化し続けるかに見える不平等、沈滞する経済成長、そして破壊的な調整が頻繁に起きる労働現場、市民社会、そして日々の生活に対する不安が広がっている。グローバリゼーションの危機が世界の秩序に再調整を迫っているように思われる。存在感を増し、経済的に力をつけているアジア諸国、特に中国には諸国間の力関係と連携を変える勢いがあり、アメリカが占めてきた地位を脅かしている。同時に、世界の多くの場所で起きているポピュリズムと独裁主義のうねりは、グローバリゼーションがもたらした惨憺たる現状への反発を取り込み、国内外でグローバリゼーションを下支えしてきたこれまでの社会の慣例と支配構造に対して政治的異議を声高に唱えている。今日、世界中で社会生活、政治経済関係、秩序とガバナンスの従来の方法論はあらゆるレベルで問題を抱え不安定化している。現状の動きをどう理解すべきなのだろうか？グローバリゼーションへの疲弊、怒り、反発なのか、それとも将来への改革、変容、実験と見なすべきなのか。不穏な状況の下、予測のつかない形で全てが渾然一体となってしまっているように見える。

2018年のSASE年次総会は京都で開かれる。世界中で進みつつある秩序の再編が旧来の研究領域と分析パラダイムにどのような影響があるのかを、こうした問題意識を共有する社会科学者の中で検討する場となる。SASE自体が従来とは違う学術的議論の場の体現を目指しているが、アジアで最初に開かれる今回の会議は実際の政治・経済・社会の変化し再構成を司る強力なダイナミズムを熟考する、まさにふさわしい機会になるだろう。

学会長 : Gary Herrigel